



今月の表紙は、12月4日(土)にモリコロパークで行われた第5回愛知駅伝でのスタートの写真です。前日の抽選で前列の位置を初めて引き当てました。第1走者は幸田中学校3年の中嶋友里彩さんです。幸田町は117番のゼッケンを付けた筆柿色のユニフォームで走りました。

## 今月の表紙

# みんなの広場

皆さんからのお便りをお待ちしています

〒444-0192 菱池字元林1-1 幸田町役場 広報こうた係  
E-mail:kikakujo@town.kota.lg.jp ☎62-1111 (内線344)  
FAX63-5139

## こうたの民話

### 「六反のはた火」 野場

むかし、野場の娘さんが、鷺田にお嫁入りしました。夫は、とても働き者で、おしゅうとさんもおしゅうとめさんもよい人で、お嫁さんは幸せでした。けれども、わずかばかりの田んぼや畑しかありません。働いても働いても暮らしはよくなりませんでした。

「そうだ。実家から、はた織り道具を持ってきて、はた織りをすれば少しは暮らしのたしになるだろう。」と思いました。そして夕方、「今から、実家まで行ってきたいと思います。いいでしょうか。」と、夫の許しを得て、実家への道を急ぎました。

「突然家に帰ってきたかと思うと、はた織り道具を荷づくりし、その上、早く帰るといいだして…。」「早く帰った方がいい…。冷えてきたぞ。菱池には氷も張っておろう。気を付けてお帰り。」

お嫁さんは、はた織り道具を背負うと、早々に家を後にしました。菱池のほとりの道に出ました。菱

池には一面に氷が張りつめていました。氷は厚くなり、渡れそうです。その時、お嫁さんはふっと思いました。「あんなに近く、鷺田の村の家の火が見える。そうだ、この氷の上を歩いて鷺田まで帰れば、岩堀の方を回って帰るよりも、ずっと早くつける。」

お嫁さんは、足元をちょうちんの火で照らしながら、ゆっくり氷の上を渡り始めました。六反まで来ると、突然、ミシッと音をたてて氷が割れ始めました。「あなた、助けて。」という声を残して、水の中に沈んでしまいました。それからしばらくして、何人かの村の人たちが、日暮れになると、六反の辺りで、ちらちらと燃える火を見るようになりました。冬の寒い日に、よく見かけたということです。「あれは、あのお嫁さんのたましいなんだ。氷の上を渡るなんて考えなかったらなあ。」と、うわさし合ったということです。

(「こうたの民話」の要約)



しながわ みやび  
中央小6年 品川 雅 さん

## みんなの作品展!

今月の作品は、平成22年度防火作品展からのセレクトです。



なるせ かのん  
幸田小6年 成瀬 月奏 さん

皆さんの作品を募集します。応募方法は、はがき裏書きもしくは作品を写真に撮りタイトルと作者名(ペンネーム可)をご記入のうえ、広報こうた係までお送りください(デジカメ写真の場合はメールで!)

男性の場合、市販のおむすびの割合が手作りおむすびの割合を常に上回っています。コンビニエンスストアなどの店頭にはいろいろな種類のおむすびが並んでいます。が、たまには、「ご飯を手にとって、その温かさ、やわらかさを感じながら、おむすびをにぎってみてはいかがでしょう。」

ちなみに呼び方は、全国的には「おにぎり」が約89%でしたが、中国地方では4分の1以上の人が「おむすび」と呼んでおり、特に広島県(38%)、山口県(36%)で高いことが分かりました。

平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災では、被災者の多くが、ボランティアによる炊き出しに助けられました。そこで活躍したのが「おむすび」です。  
お米を通じて食と農業のあり方を考え、「ごはんを中心とした健康的な食生活をもっと広めていこう」という「ごはんを食べよう国民運動」。運動を進めている「ごはんを食べよう国民運動推進協議会」では、大震災での経験をきっかけに、飽食の暮らしを問い直し、いつまでも食料とりわけお米の重要性や、ボランティアの善意を忘れないようにと、毎年1月17日をおむすびの日」と定めました。「ごはんのおむすび」だけでなく、人と人の心を結ぶ「おむすび」の意味も込められています。

## 今日の記念日

1月17日は「おむすびの日」

※資料：ごはんを食べよう国民運動推進協議会 <http://www.gohan.gr.jp/>



# 青春トークリレー

△△第214走者△△

とりに なおみ  
**鳥居 直実** さん

芦谷区在住 22歳 大学生  
身長 161cm A型

**好きなタイプ** 周りの気持ちも考えられる人

**好きな芸能人** 生田斗真

私は現在、小さいころから抱いていた「保育士になる」という夢を実現するために大学に通っています。保育所実習では、私が子どもの時に通っていた保育園に行き、本当にたくさんのことを学ばせていただきました。保育士の方々が子どもたちと一緒に泥んこになって遊んだり、子どもたちと同じ目線になって笑ったり、悩んだりしている姿を見て、私もこの保育園の先生のような保育士になりたいと強く思いました。

最近では、バレーボールサークルや新しいバイトも始め、とても充実した生活を送っています。残り少ない学生生活、今しかできないことに積極的に挑戦し、悔いがないように過ごしたいです！



## はろーキッズ

掲載写真を印刷してプレゼント。  
希望者は企画政策課まで。



### わんぱくどより

「某月某日  
菱池保育園」

#### 楽しかった収穫祭

10月25日から27日まで菱池保育園では、収穫祭を行いました。収穫祭とは本年度から始めた行事で、子どもたちと5月に植えて育てたサツマイモを中心にジャガイモ、カボチャ、ウインナーなどを程よく焼いて、植物の成長を知ったり、おいしさを感じたりしようという行事です。

土まみれになりながらサツマイモを掘った子どもたち。大きい、小さいの、

太いの、細いの、さまざまなお芋を手にとって保育士にうれしそうに伝えにきました。「これは大きいから、お父さん芋。これは小さいから赤ちゃん芋。」など子どもの発想は本当にかわいらしく聞いていて自然と笑顔になってしまいます。

収穫祭の前日、子どもたちに芋掘りをしたサツマイモを食べることを伝えると大はしゃぎ!!ご家庭でリュックやおにぎりなどを用意していただき、当日はプチ遠足気分です園舎裏の菱池ランドへ…。

子どもたち「いっぱいあるからたくさん食べてね!!」と保育士の声に大満足。  
普段野菜が苦手な子どもも不思議なことにこの日はかなりは度もおかわりしていました。自分たちで育て、収穫した野菜にはおいしさの魔法がかかっているのかもしれないですね!!大成功の収穫祭でした。



▲『わー!!でっかいお芋だー!!』

## 編集者の ちょっと ひびく

▼ついに、とら年からうさぎ年に変わりました。明けましておめでとございます。今年も広報こうたをよろしく願います。

新年早々にすみません。先月号で「日ごと寒さがつります」を石川さゆりさんの津軽海峡冬景色と書いてしまいました。読者から違うよと、するどい指摘がありました。この欄を読んでくださってありがとうございます。正解は、都はるみの北の宿からでした。津軽海峡冬景色は「上野発の夜行列車おりたときから」でした。追伸、両方とも作詞は阿久悠さんでした。

私はよく、かぐや姫の「神田川」(♪あなたは、もう忘れたかしら…)を家で歌います。(これは間違いないです)息子と娘は、本家本元の歌は知らないのですが、私の歌っている歌として覚えてしまっています。息子と娘は、「この歌はお父さんの歌だね。だって、お父さんはお母さんに言われたことを、よく忘れるからね」と、言っていて「お父さんは、よく忘れちゃうよ」と替え歌にしています(笑)。

今年も間違えない、正確な記事を掲載するように全力でがんばります。気づいた点があれば連絡をいただけると大変うれしく思います。それと、子どもたちからよく忘れるねといわれないうちにしっかりします。父親としての威厳が…(もともとないか!)

(R)